

緊急アピール

二〇〇〇年「子ども読書年」を機に、超党派の「子どもの未来を考える議員連盟」が提唱して創設された「子どもゆめ基金」は、未来への投資として国民に歓迎され、いまや地域の読書活動や体験活動を推進する上で、重要な役割を果たしています。

「子どもの読書活動推進法」と「子どもゆめ基金」は、「の間、車の両輪として学校における一斉読書活動をはじめ、読書の街づくりや読み聞かせ、乳幼児に絵本を贈るファーストブックや家庭読書、自然体験など子どもの人間的な成長に必要な学校内外のさまざまな活動を育てきました。

こうした動きを背景に、二〇〇八年六月、衆参両院は二〇一〇年「国民読書年」に関する決議」を全会一致で採択し、その決議文において、読書は読解力や言語力の向上に欠くことのできないものとして明確に位置づけ、読書活動の飛躍的な発展をめざすことを宣言しています。

今回の行政刷新会議の「子どもゆめ基金」及び「子どもの読書活動推進事業」に関する廃止方針は、およそ二〇年にわたって、子どもの読書環境に尽力してきた立法府の努力や、全国のボランティアたちが培ってきた草の根運動に冷水を浴びせるものであり、私たちは政府に対し、廃止方針の撤回と「子どもゆめ基金」の存続を強く求めます。

右、アピールする。

二〇〇九年一月三〇日

「子どもゆめ基金」の存続を求める国民の集い